

パートナーイベント

京都国際マンガ・アニメフェア



会 期：2021年9月18日(土)・19日(日)

会 場：みやこめっせ他

主 催：京都国際マンガ・アニメフェア実行委員会／京都市

共 催：KYOTO CMEX 実行委員会／京都国際マンガミュージアム／東映太秦映画村／京都コンピュータ学院・京都情報大学院大学

対 象：マンガ・アニメに関する企業・団体など

公式サイト URL：http://kyomaf.kyoto/

総来場者数(参加数)：71,232人

出展社数：51社(国内出展社数：51社)

プレス社数：29社(国内プレス社数：29社)

■開催内容

マンガ・アニメを活用した新たなビジネスの創出支援、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者や外国人など新たな観光客の掘り起こし、マンガ・アニメ文化の海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上を目的として開催している西日本最大規模のマンガ・アニメの総合見本市。10回目の今回は、新型コロナウイルス感染症の広がりにより大きな影響を受けているコンテンツ・エンタテインメント業界の活性化、クリエイターの支援、そして、文化・コンテンツの力で社会に明るい光を灯すため、緊急事態宣言下での開催ではあったものの、昨年の経験を活かし、より徹底した感染症対策を講じた運営手法にて開催した。

みやこめっせ会場では、昨年度よりも多い51企業・団体に出展いただき、グッズ販売や、伝統工芸体験ブース等、様々なコンテンツを楽しんでいただくことができた。今年は10回記念ということで、京まふNFTギャラリーやスマートフォンアプリで楽しめるサウンドAR企画「旅まふ」など、最新技術を活用した新たな企画も展開した。

毎年開催しているマンガ出張編集部・マンガ道場は、コロナの影響で10月・11月に分散開催となったものの、計123名の方々に参加いただいたほか、京都クリエイティブ企業キャリアフォーラムは、説明会をYouTube配信、個別面談会をビデオ会議システムでの実施とし、完全オンラインでの開催となったが、15企業の出展があり、295名の方々に参加いただいた。

さらに、京都国際マンガ・アニメ大賞では、コロナ禍で世界中のクリエイターの表現の場が制限される中、97の国と地域から2,632作品の応募があり、過去最大規模の開催となった。

また、産業振興の面では、21社とのコラボで計188種類の商品開発を行った(昨年度：9社43種類)ほか、アニメと異業種のコラボレーションを表彰する「京都アニものづくりアワード」の開催により、コンテンツビジネスの活性化にも取り組んだ。

緊急事態宣言下での開催となったものの、本イベントの開催による新型コロナウイルス感染者や、クラスターの発生はなく、無事に記念すべき10回目を終えることができた。来年度以降については、オンライン施策をさらに充実させるなど、コロナ禍でも国内外を含む多くの方々に楽しんでいただける新しいイベントの在り方を模索していく。



■2021年度の新規取り組みとその成果・特色など

本年は、「第1回京都アニものづくりアワード」を開催した。近年、アニメファンの増加、一般化によってアニメマーケットが広がり、ものづくり企業、小売り流通、伝統産業、自治体などとの異業種コラボレーションが増加している。本イベントは、こうした中から優秀作品を表彰することで、企業・団体の取り組みを広く世に伝え、よりクオリティの高いコラボコンテンツを増やしていくことを目的に開催。今年度は、地域の産業振興など、地方創生を目的とした自治体や企業の取組(観光PR、伝統工芸とIPのコラボ等)を対象に「地方創生賞」を新たに設け、自治体や企業等から200点以上の応募があり、9月19日(日)のステージ内で、22点が表彰された。

また、文化財、伝統工芸品や京まふ出展者様有志によるコンテンツをNFT化し、360°のバーチャルギャラリーにて展示する京まふNFTギャラリーを開催し、大学や企業など計7出展者が参加した。

さらに、スマートフォンアプリ「ロケットーン」を利用して、声優の案内や会話に耳を傾けながら実際の名所を巡ることができ、京都の新しい魅力を体感することができる「旅まふ」を実施し、2,314人が参加した。(9月18日～12月30日)



■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数・成果

- ・マンガ・アニメ作品と京都企業21社とのコラボ商品を新たに188種類開発・販売。
- ・地元・行政による文化イベント、博物館や神社仏閣、人気観光地でのコラボ企画、大型商業施設でのグッズ販売の展開などの連携により、広域的な賑わいを創出。
- ・アニメ×異業種のコラボレーションを表彰する「京都アニものづくりアワード」の開催。200点以上の応募があり、グランプリ1点等、計22点が表彰された。

京都国際マンガ・アニメ大賞
大賞受賞作品



© 2021 Mizuki Ito